

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : LAPONITE-XL 21
製品コード : 000000000000158444
用途 : レオロジー添加剤
他の特定手段 : INCI CAS.: 85085-18-3 (proposed)

供給者情報

供給者の会社名称 : ビックケミー・ジャパン株式会社
住所 : 東京都新宿区市谷本村町3-29
電話番号 : +49 281 670-23532
FAX番号 : +49 281 670-23533
電子メールアドレス : GHS.BYK@altana.com
緊急連絡電話番号 : East/South East Asia +65 3158 1074

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

GHS 分類基準に該当しない。

GHS ラベル要素

ハザードを示すピクトグラム、注意喚起の言葉、ハザードステートメント、注意書きは不要

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

重要な徴候及び想定される非 : 汚染表面は非常に滑りやすくなる。
常事態の概要

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質
化学名又は一般名 : 合成 (変性) ヘクトライト

成分

本製品は、日本の法令で定められている化学物質、あるいは GHS に準拠して分類されるカットオフ値以上の化学物質は含有しない。

4. 応急措置

一般的アドバイス : 被災者を一人にしない。

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

- 吸入した場合 : 吸い込んだ場合、新鮮な空気のある場所に移す。
意識がない場合は、回復体勢にし、医師の指示を受ける。
症状が持続する場合は、医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 石けんと水で洗い流す。
刺激があり継続する場合には医療機関で診察を受ける。
- 眼に入った場合 : 予防措置として、水で眼を洗浄する。
コンタクトレンズをはずす。
損傷していない眼を保護する。
眼刺激が治まらない場合は、専門医に相談する。
- 飲み込んだ場合 : 気道を確保する。
ミルクやアルコール飲料を与えない。
意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
症状が持続する場合は、医師に連絡する。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 知られていないか予想されない症状。
眼と呼吸器官、皮膚に刺激性。
- 医師に対する特別な注意事項 : 症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧
現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
二酸化炭素 (CO2)
粉末消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 大型棒状の水
- 特有の危険有害性 : 製品自体は燃焼しない。
材料は濡れるとすべり易くなる。
- 有害燃焼副産物 : 有害燃焼生成物は知られていない。
- 特有の消火方法 : 化学物質の火災に対する標準手順。
現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 保護具を使用する。
粉じんを吸い込まないよう留意。
粉じんの発生を避ける。
こぼれやもれが起きている場所から風上に避難させる。
物質で滑りやすい状態となる可能性がある。
適切な個人保護具を装着した許可された要員のみが立ち入ることができる。
- 環境に対する注意事項 : 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。
物質が排水溝ないし水路へ侵入しないようにする。
流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

- 封じ込め及び浄化の方法及び
機材 :
- 粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。
 - 除去の際には認可された工業用吸引機を使用する。
 - 高性能粒子除去空気フィルター (HEPA フィルター)
 - クリーンアップ方法—大規模の流出
 - 水スプレージェットで、粉じんを除去する。
 - シャベルを使って適切な容器に入れ、処分する。
 - 洗浄後は、水で痕跡を洗い流す。
 - クリーンアップ方法—小規模の流出
 - こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。
- 粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。
掃いてシャベルですくいとる。
廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 火災及び爆発の予防 :
- 粉じんの発生を避ける。
 - 粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

- 安全取扱注意事項 :
- できれば屋外または換気の良い場所で作業をする。
 - 蒸気/粉じんを吸い込まない。
 - 皮膚や眼への接触を避けること。
 - 皮膚への長期のまたは反復接触を避ける。
 - 通気が不十分な場合は、適切な呼吸装置を着用すること。
 - 個人保護については項目 8 を参照する。
 - 作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。

- 接触回避
衛生対策 :
- 強酸と強酸化剤
 - 作業上の一般的な注意事項を守る。

保管

- 安全な保管条件 :
- 粉じんの発生を避ける。
 - 容器を密閉しておくこと。
 - 電気設備及び作業資材は技術安全基準に準拠していなければならない。
- 混触禁止物質 :
- 特に言及すべき物質は無し。
- 保管安定性に関する詳しい情報 :
- 乾燥した場所に保管する。
 - 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別暴露限界/許容濃度

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

設備対策 : 十分な換気を確保する。
空気濃度を職業暴露基準以下に保つ。
粉じんは、発生源から直接排出されなければならない。

保護具

呼吸用保護具 : 粉じんおよびエアゾール形成の場合は、適合したフィルターの付いた呼吸装置を使用する。
通常、呼吸用保護具は必要ない。

手の保護具

備考 : この製品を扱う前に、皮膚保護クリームを使う。製造メーカーと相談の上、作業場所に相応しい防護手袋を着用すること。
適切な手袋を着用すること。

眼の保護具 : 保護眼鏡
サイドシールド付き保護眼鏡もしくはゴーグルを着用する。
作業環境もしくは作業中に埃の多い状態、ミスト、エアロゾルなどが発生する場合は、適切なゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具 : ユニフォームもしくは実験室用コートを着用しましょう。
保護服

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 粉末
色 : 白色
臭い : 無臭
臭いのしきい(閾)値 : 非該当
融点/ 範囲 : 非該当
沸点/ 沸騰範囲 : 非該当
可燃性 (固体、気体) : 燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界**爆発範囲の上限 / 可燃上限値** : 非該当**爆発範囲の下限 / 可燃下限値** : 非該当

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

引火点	:	非該当
自己発火性	:	非該当
分解温度	:	データなし
pH	:	9.7 含有量: 20 grm/l (懸濁液として)
蒸発速度	:	非該当
かさ密度	:	1,000 kg/m ³
自然発火温度	:	非該当
粘度	:	
粘度(粘性率)	:	非該当
溶解度	:	
水溶性	:	不溶
溶媒に対する溶解性	:	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	:	データなし
蒸気圧	:	非該当
密度及び／又は相対密度 比重	:	2.53 (20 - 21 ° C)
密度	:	データなし
相対ガス密度	:	非該当
粒子特性 粒子サイズ	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	:	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
化学的安定性	:	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
危険有害反応可能性	:	推奨保管条件下では安定。 特に言及すべき危害要因はない。 粉じんは空気中で爆発性の混合物を生成することがある。

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

- 避けるべき条件 : 長時間にわたり空気または湿気に触れる。
データなし
- 混触危険物質 : 強酸と強酸化剤
- 危険有害な分解生成物 : 指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。
危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性

製品:

- 急性毒性（経口） : (ラット, メス): > 2,000 mg/kg
方法: OECD 試験ガイドライン 420
GLP: 該当
- (ラット, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg
方法: 指令 67/548/EEC, Annex V, B. 1.
GLP: 非該当
- 急性毒性（吸入） : LC50 (ラット, オスおよびメス): > 1660 mg/m³
曝露時間: 4 h
試験環境: 粉じん/ミスト
GLP: 該当
- LC0 (ラット, オスおよびメス): > 0.34 mg/l
曝露時間: 6 h
試験環境: 粉じん/ミスト
方法: 指令 67/548/EEC, Annex V, B. 2.
GLP: 非該当
- 急性毒性（経皮） : LD50 (ウサギ, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg
GLP: 該当

皮膚腐食性/刺激性

製品:

- 種 : ウサギ
結果 : 皮膚刺激なし
GLP : 該当
- 種 : EPISKIN human epidermis skin constructs
結果 : 皮膚刺激なし
GLP : 該当

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品:

種 : Bovine corneal opacity and permeability assay (BCOP)
結果 : 眼への刺激なし
方法 : OECD 試験ガイドライン 437
GLP : 該当

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

試験タイプ : Mouse Local Lymph Node assay (LLNA)
暴露の主経路 : 経皮
種 : マウス
方法 : OECD 試験ガイドライン 429
結果 : 皮膚を過敏化させない。
GLP : 該当

アセスメント : No acute effects have been observed.
動物実験では感作性なし。

生殖細胞変異原性

製品:

in vitro での遺伝毒性 : 試験タイプ: Ames 試験
代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在
方法: OECD 試験ガイドライン 471
結果: 陰性
GLP: 該当

試験タイプ: in vitro 染色体異常試験
代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在
方法: OECD 試験ガイドライン 473
結果: 陰性
GLP: 該当

試験タイプ: In vitro mammalian cell gene mutation test
(mouse lymphoma)

代謝活性化: 代謝活性化の存在または不存在
方法: OECD 試験ガイドライン 476
結果: 陰性
GLP: 該当

in vivo での遺伝毒性 : 備考: データなし

生殖細胞変異原性 - アセスメント : In vitro 試験で、突然変異誘発性が示されなかった

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

ント

発がん性**製品:**

備考 : データなし

生殖毒性**製品:**

妊娠に対する影響 : 備考: データなし

胎児の発育への影響 : 備考: データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)**製品:**

アセスメント : この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質 (単回ばく露) としては未分類。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)**製品:**

アセスメント : この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質 (反復ばく露) としては未分類。

反復投与毒性**製品:**反復投与毒性 - アセスメント : No acute effects have been observed.
持続性または累積性効果は観測されません。**誤えん有害性****製品:**

データなし

詳細情報**製品:**

備考 : データなし

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

12. 環境影響情報

生態毒性

製品:

藻類／水生生物に対する毒性 : ErC50 (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)): > 100 mg/l
曝露時間: 72 h
方法: OECD 試験ガイドライン 201
GLP: 該当

微生物に対する毒性 : EC50 (活性汚泥): > 1,000 mg/l
方法: OECD 試験ガイドライン 209
GLP: 該当

環境毒性アセスメント

水生環境有害性 短期 (急性) : 本製品には既知の生体毒性は無い。

残留性・分解性

製品:

生分解性 : 備考: データなし

生体蓄積性

製品:

生体蓄積性 : 備考: データなし

土壤中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響

製品:

生態系に関する追加情報 : データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

汚染容器及び包装 : 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (UNRTDG)

国連番号 : 非該当
国連輸送名 (Proper shipping name) : 非該当
国連分類 (Class) : 非該当
副次危険性 (Subsidiary risk) : 非該当
容器等級 (Packing group) : 非該当
ラベル (Labels) : 非該当

航空輸送 (IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number) : 非該当
国連輸送名 (Proper shipping name) : 非該当
国連分類 (Class) : 非該当
副次危険性 (Subsidiary risk) : 非該当
容器等級 (Packing group) : 非該当
ラベル (Labels) : 非該当
梱包指示 (貨物機) (Packing instruction (cargo aircraft)) : 非該当
梱包指示 (旅客機) (Packing instruction (passenger aircraft)) : 非該当

海上輸送 (IMDG-Code)

国連番号 : 非該当
国連輸送名 : 非該当
国連分類 : 非該当
副次危険性 : 非該当
容器等級 : 非該当
ラベル : 非該当
EmS コード : 非該当
海洋汚染物質 (該当・非該当) : 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)

供給された状態の製品には非該当。

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

非該当

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

15. 適用法令

関連法規

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

化学物質排出把握管理促進法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危険物として規制されていない

航空法

危険物として規制されていない

高圧ガス保安法

非該当

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 : 有害液体物質には該当しない

個品輸送 : 海洋汚染物質には該当しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

16. その他の情報

日付フォーマット : 年/月/日

その他の略語の全文

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KEGI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニューージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリ; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登

LAPONITE-XL 21

版番号
2.2改訂日:
2023/07/14前回改訂日: 2022/11/11
初回作成日: 2016/01/14

録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリ; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。

JP / JA